

5G通信

Vol.26



いま話題の次世代通信「5G」に関する
とっておきの情報をご紹介します



はじまる！日本の5G

4月10日、総務省は国内通信事業者4社に対し、5Gで使用する電波の周波数帯割り当てを行いました。待ちに待った“日本の5G”がついに始動します！

加速するインフラ投資、製品・サービスも実用化へ

- 総務省は、2019年1月～2月に申請を受けた4つの通信事業者全てに対し、5G（第5世代移動通信システム）で使用する電波の周波数帯割り当てを実施しました。
- 用意した周波数帯のうち、スマートフォン（以下スマホ）などに使用しやすい3.7GHz帯および4.5GHz帯の6枠については、NTTドコモとKDDIに2枠ずつ、ソフトバンクと楽天モバイルに1枠ずつ割り当てられ、また機器間通信などに使用される28GHz帯については、各社1枠ずつ割り当てられることとなりました。

各社への周波数帯割り当て結果



- 割り当てに際し設定された審査基準には、5年以内に全国の半分以上のエリアに基地局を設置すること、2年以内に全都道府県でサービスを開始することなど、地方における5Gの普及を見据えた内容が盛り込まれました。
- 通信事業者各社は基地局への投資を急ぐほか、5Gに関連した製品・サービスの技術要件が明確になったことにより、関連企業における現在進行中の研究開発は、実用化に向けて大きく前進することが予想されます。

5G国際競争にいよいよ参入

- 日本はこれまで、世界におけるモバイル通信のリーダーとして次世代規格の導入に先んじてきました。5Gにおいては、「一般商用化開始」や「スマホ向けサービス開始」で米・韓が先行し、“世界初”争いを繰り広げています。
- 米中覇権争いに見られるように、今後の世界経済のカギを握る5G。いよいよ周波数帯が決定し、国や企業として、世界にどのように存在感を発揮していくかが注目されます。
- 5G導入における次のマイルストーンとしては、2019年9月に開催されるラグビーワールド杯での5Gプレサービスの実施が挙げられます。1年後の東京五輪に向け、通信事業者各社は2020年春から順次サービスを開始することを発表しているため、2019年は各種トライアルやプロモーションを目にする機会が増えることが予想されます。

	周波数帯	一般サービス	スマホ向けサービス
 米国	2018年11月～オークション開始	2018年10月～一部地域においてサービス開始	2019年4月～
 韓国	2018年6月オークション完了	2018年12月～一部地域においてサービス開始	2019年4月～
 日本	2019年4月割り当て完了	2019年9月プレサービス実施	2020年予定

（出所）当資料作成時点の各種情報を基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成 ※ 図はイメージです。



【 ご留意事項 】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。